

[成果情報名]年末販売用早生カンキツ「みえ紀南6号」

[要約]露地栽培で12月中旬に収穫できる早生カンキツを「早香」の放射線育種により育成した(平成27年3月30日品種登録出願:第30057号)。糖度は12月下旬には12%で高く、種子は1~2個で「早香」より少ない。

[キーワード]中晩生カンキツ、新品種

[担当]三重県農業研究所 紀南果樹研究室

[分類]普及

[背景・ねらい]

カンキツ「早香」は農林水産省が「今村温州」に「中野3号ポンカン」を交配して育成した品種である。「早香」ははく皮性良好で、糖度も12%前後で安定しており果皮障害等も少なく作りやすい品種であるが、近くに花粉を持つ品種が混植されている場合は種子が形成される。そこで、放射線を利用した突然変異育種により「早香」の少核系統を作出し、三重県の露地栽培における年末のカンキツ商材を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 「みえ紀南6号」は露地栽培で12月中旬から収穫できる品種である(写真1、写真2、表2)。
2. 「早香」は人工受粉を行うと完全種子が12~16個でき、人工受粉を行わなくても7~12個の種子ができるが、「みえ紀南6号」は人工受粉を行わない場合は1個未満、人工受粉を行っても2個程度しか種子ができない(写真2、表1)。
3. 「みえ紀南6号」の糖度は「早香」にくらべてやや高いが、その他の果実形質に違いはない(表2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 年末商材として県内のカンキツ栽培地域に導入が期待できる。
2. 苗はウイルスやウイロイドのフリー苗を導入する。
3. 栽培はポンカンに準じた管理を行うと良い。また生産には、三重県の許諾が必要である。

[具体的データ]

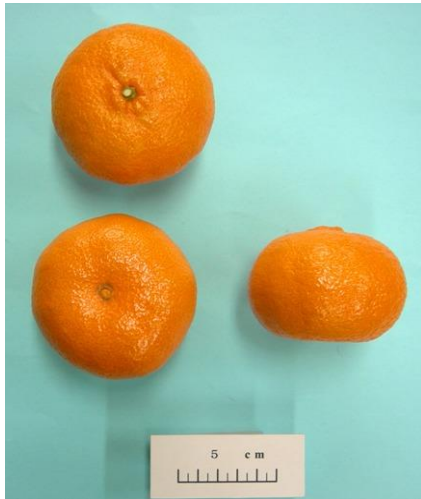


写真1 「みえ紀南6号」果実

「みえ紀南6号」(二代目) 人工受粉



「早香」(対照) 人工受粉



「みえ紀南6号」(二代目) 放任



「早香」(対照) 放任



写真2 「みえ紀南6号」の人工受粉の有無が果実の含核数に及ぼす影響(2008年)

表1 「みえ紀南6号」の人工受粉が果実の含核数におよぼす影響

調査年	系統名	処理区	調査果数 (果)	含核数(個/果)		含核果割合 (%)
				完全	不完全	
2007年	みえ紀南6号	人工受粉	11	1.7 ^y c	0.0 c	85.7 a
		放任	90	0.8 c	0.1 c	40.0 b
	早香(対照)	人工受粉	49	16.7 a	1.5 a	96.4 a
		放任	90	12.6 b	0.9 b	100.0 a
有意性				**	**	*
2008年	みえ紀南6号	人工受粉	58	2.2 c	0.2 c	81.1 b
		放任	90	0.4 c	0.1 d	24.4 c
	早香(対照)	人工受粉	51	12.7 a	0.9 a	100.0 a
		放任	60	7.1 b	0.7 b	90.0 b
有意性				*	*	*

^z調査日: 2007年12月25日, 2008年12月15日

^y異符号間に有意差有り (**1%水準, *5%水準)

表2 「みえ紀南6号」の果実品質(2007年)

調査日	系統名	全重 (g)	横径 (mm)	果形 指数	果肉 率(%)	果皮厚 (mm)	^y 果皮 色	^y 果肉 色	糖度 (%)	クエン 酸(%)	着色歩 合(分)
12月25日	みえ紀南6号	173	80.7	147	77.7	3.39	6.5	7.4	12.0	0.73	8.7
	早香(対照)	191	81.9	139	78.3	3.28	6.4	7.4	11.4	0.64	9.1
有意性		NS	NS	*	NS	NS	NS	NS	**	NS	NS

^y果皮色・果肉色はカラーチャート値

[その他]

研究課題名: 新品種育成による果樹産地活性化事業

予算区分: 県単

研究期間: 2012年度

研究担当者: 市ノ木山 浩道、須崎 徳高

発表論文等: なし